学者で最近有名になった Paul Ehrlich は参加出来なかった．異色の参加者としては，Wayne State 大学の政治学の教授で最近中国人口の研究を精力的に行なっている台湾出身の Pi-chao Chen をあげられる．

3．議事日程

1月3日（水）午前— California Institute of Technology の学長 Harold Brown の開会の辞に始まり，John Waterbury (AUFS) の "Egyptian Elite Perceptions of the Population Problem", Marcus Fanda (AUFS) の Perceptions of a Population Policy for Bangladesh" の報告があり，討議が行なわれた．午後は Victor Du Bois (AUFS) の Population Problems, Perception and Policy in Rwanda" および Thomas Sanders (AUFS) の "Population and Perception in Costa Rica" の報告があり，討論が行なわれた．

1月4日（木）午前— Dennison Rusinow (AUFS) の "Slovania: Modernization Without Urbanization ?" および Charles Gallagher の "The Environment in Japan" の報告があり，討論が行なわれた．

午後には Loren Fessler (AUFS) の "Chinese Conceptions of and Policy Toward Population Growth in People's Republic of China", Willard Hanna の Perceptions of Population Pressures in Singapore", Carl Djerassi（スタンホード大学化学教授）の "On the possibility of creating, in Stockholm, an interdisciplinary group on population problems" の報告があり，討論が行なわれた．

1月5日（金）午前— Albert Ravenholt (AUFS) の "Land-Mar-Productivity Microdynamics in Rural Bali", Norman Gall (AUFS) の "Oil and Democracy in Venezuela" の報告があり，討論が行なわれた．午後— Jon McLin (AUFS) の "Population Pressures and Resource Exploitation in the Northeast Atlantic" の報告があり，そのあと一般的討論が行なわれ，Harrison Brown の閉会の辞によってこの会議は終了した．夜カクテルパーティが Athenaeum Patio（ゲストハウス）で行なわれた．

4．所　感

(1) 工科大学に人口研究部門があり，地球物理学者がその所長として調査研究を行なっていることは，人口の分野の学際的特徴からみて注目される．特に，AUFS の世界の低開発国についての現地調査が報告の中心となっていることは，アメリカの調査研究における規模の大きさと関心の所在を十分に示している．

(2) Charles Gallagher 氏が，4日の報告のあと，日本の人口移動と再分布について10分ないし15分の報告を行なう要請があった．その説明の要旨は次のごとくである．(イ) この会議は Perception and Policy となっているが，現実の過程をマイクロ的に考えると Perception と Policy の間に Behavior をおくことが適切ではないか，(ロ) 人口学的行動を考えるばあいの基本的条件として，国土・人口，マスコミ，教育を考慮するが必要，(ハ) さらに変動する経済的，社会的条件に対する考慮，(ニ) 日本人口の移動行動の歴史的概観を行なうと共に最近におけるその新しい変化について説明を行なった．（黒田俊夫記）

ハワイ東西センター人口研究所国際諮問委員会

1．ハワイ東西センター人口研究所の国際諮問委員会1973年会議が1973年2月19日，20日の2日間にわたって東西センターで開催された．

2．参 加 者

現地側からは人口研究所所長の Paul Demeny，研究所幹部の Palmore, Cho, Faucett，さらにハワイ大学副総長の山村教授，外部からは議長の Hauser，フィリピンの Concepcion，タイの Visid，インドネシアの Suwardjons，国連の Chandrasekaran と筆者(黒田)が参加した．

3．Demeny 所長より現在までの活動ならびに次年度の計画について詳細な報告があった．特に，人口の中核領域として次の4個をあげ，これにもとづいて調査研究，大学院教育，専門的研修の開発(セミナー等)，関係研究機関の協力を行なっている．(1) 人口の "process" と構造，(2) 人口学的行動の原因— Faucett

のマイクロレベルの研究と micro-demographic process の研究—，(3) 人口学的行動の影響，(4) 人口政策—人口プロセスの修正，人口の望ましいコース，以上の報告にもとづいて討論が行なわれた．

4．筆者自身のコメントとして次のような報告を行なった．(1) Faucett が行なっている"子供に対する態度調査"のような比較研究をセンターを中心としてアジア諸国の間において行なうこと，(2) このばあい西欧文化，特にアメリカ—ハワイやカリフォルニアのようなアジア文化が緊密に混合している地域—をふくめること，(3) ODAの活動と調整，協力すること，(4) 特定の研究題目についての共同比較研究を行なうために，アジアの特定の人口研究機関あるいは特定の専門家と密接な接触を維持すること，等である．

（黒田俊夫記）

国際連合人口委員会第2回特別会期

1．United Nations Population Commission Second Special Session が1973年3月19～30日までニューヨークの国連本部で開催され，日本代表として黒田がこれに参加した．

2．参加者は27カ国代表および8カ国の observer，その他国連事務局，国連関係機関の代表等である．議長には新しくルーマニア代表の Mrs. V. Russ（厚生次官），副議長の1人にタイ代表の Visid Prachuabmoh が新任された．前回まで議長であった印度代表の A. Chandra Sekhar および副議長の1人であったチェコの V. Wynnyczuk が，それぞれ国の任期が満了となったため（1972年12月31日）である．Rapporteur は従来どおり，デンマーク代表の M. Boserup（コペンハーゲン大学経済研究所部長）が務めることとなった．代表団の中で若干注目すべき点をのべておこう．最も大きい代表団は従来と同じくアメリカであって，W. Draper, Jr. を代表とし，代表代理に国務省人口問題の特別補佐官の P. P. Claxton, Jr.，顧問にAID の L. Emerson，国務省国際機関局の J. B. Marshall，アメリカ代表部の経済社会問題顧問の S. K. Mousky，人口危機委員会の秘書 Mrs. P. T. Piotrow の総勢6名であった．ソ連代表には前回までの V. E. Ovsienks 教授に代って，昨年まで国連人口部に勤務していた若手の A. Isupov (Chief, Census Department, Central Statistical Office) があらわれた．フランス代表は人口委員会発足以来終始つとめている A. Sauvy で，代表代理には J. Bourgeois-Pichat (Chairman, Committee for International Co-ordination of National Research in Demography) が出席した．アジア代表には新しくトルコ（代表は H. Cillov, Director, Institute of Statistics, University of Istanbul）とタイが加わり，インドネシア，イラン，フィリピン，日本の6カ国となった．トルコ代表は除き，その他の5カ国の代表はすべて旧知の人々であったことは，アジアの見解をまとめる上において非常に好都合であった．

Philippines: Miss M. Concepcion, Dean, Population Institute, University of the Philippines

Thailand: Mr. V. Prachuabmoh, Director, Institute of Population Studies, Chulalongkorn University

Indonesia: Mrs. R. Sardjono, Secretary-General, Ministry of Social Affairs

Iran: Mr. D. Behnam, Professor of Sociology, University of Teheran

参加国はアフリカ7国 (Egypt, Gabon, Ghana, Morocco, Niger, Rwanda, Tunisia)，ラテンアメリカ5国 (Barbados, Brazil, Costa Rica, Haiti, Peru)，アジア6国，アメリカ1国(U.S.A.)，ヨーロッパ8国 (Denmark, France, Netherlands, Romania, Sweden, U. S. S. R., U. K., Ukraine) で合計27カ国である．

3．新事務局の編成と特徴

世界人口会議事務総長に任命された Antonio Carrillo Flores と人口部長に任命された Léon Tabah が始めて出席した人口委員会である．前者はメキシコの大蔵大臣，外務大臣を歴任した政治家であり，後者はフランス人口問題研究所の研究部長で，長くサンチアゴの国連人口研究訓練センターに勤務した人物でスペイン語が得意のフランス人である．